

秋号 (No.17) 2010.11月発行

# やすらぎだより

## やすらぎ福祉会の理念

利用者の基本的人権の尊重を何よりも大切にします。  
法人及びその事業の民主的運営を重視します。  
地域に開かれた特別養護老人ホームをめざします。  
利用者の福祉と医療の連携を重視します。  
高齢者の社会保障の充実・向上をめざします。

社会福祉法人やすらぎ福祉会 〒921-8065 金沢市上荒屋1-39 TEL 076-269-0808

## 第15回 やすらぎの里まつり開催 1000人の来場者で大賑わい!!



2010年10月17日(日) やすらぎホーム





# 長寿を祝う会 開催

やすらぎホーム

敬老の日 めえ鯛!!  
ホームで盛大にお祝い!

9月20日の敬老の日に“長寿を祝う会”が開かれました。

やすらぎホームの1階、2階共に最高長寿の101歳の方を始めとし、卒寿、米寿の方にブーケや記念品でお祝いしました。中には嬉しさのあまり涙を流されたり、何度も「ありがとう」と言われる方もいらっしゃいました。また、出し物として、職員とご家族さんから、衣装を身にまとった“おわら節”と“鱒鱒めで鯛”を表す口上が行われ、真剣に見たり、



一緒に手を動かす方も見られました。ステキなフラダンスに皆さん大喜び、みんなで手拍子しながら見て楽しませて頂きました。

昼食は栄養課より豪華なお重に入った食事。お酒も少し楽しみながらとてもおいしく頂きました。また、入居者やご家族さんとたくさんの歌を歌い、会を盛り上げ、たくさんの声、たくさんの笑顔を見ることができ、とても楽しい会となりました。

これからもずっとたくさんの方を祝っていきたいです。



豪華なお重に入った食事 →

## 1年目職員の学習懇談会を定期開催しています!!

やすらぎホームでは2010年度入職の1年目の職員を対象とした学習懇談会が月に1度行われています。今回の学習会のテーマは『ターミナル・看取り』でした。感想として、他者の意見を聞くことができ勉強になった。入居の方がどのような最期を迎えたいのか、個人の生活歴や家族との情報交換等を通してその方の思いを酌みとっていきたい等がありました。

今後も、他者との意見交換や、共に学んで行く事で1人1人が成長して行けたら良いと思います。



なんぶやすらぎで

# バザー開催

なんぶやすらぎホーム

10月10日(日)なんぶやすらぎバザーが行われました。当日は晴れ間あり時折雨降りと何とも忙しい天気でしたが、たくさんの来場者がありました。

入居者、利用者、ご家族、近所の方々に会場は所狭しと賑わい、餅つき、なめこ汁、串焼き、焼きそば、チャリティーセール、喫茶、おでん等盛りだくさんのお店が並び、皆さんおいしい物を食べて笑顔があふれていました。

おでんは2日前から各ユニットで入居者と一緒に仕込みをし、匂いにそそられバザーへの気分が盛り上がり「おいしかった!」と大好評でした。何日も前から楽しみにされていた入居者の方もお当たりの串焼きを買ってビールで乾杯!余興では加賀山昭月さんの民謡ショーがあり、入居者はじめ多くの方が聞き入っていました。



女の心と秋の空  
降るも晴れるも良しとして  
バザー盛況万々歳



南健康友の会の健康チェックコーナーやなんぶ職員による介護保険改善署名取り組みもあり、回を重ねるごとに少しずつですが内容も広がってきています。

今回のバザーの成功も、入居ご家族、なんぶやすらぎの会の皆さん、ボランティアさん、やすらぎホームからの支援の方、たくさんの協力があったからこそだと思います。

当日来られたなんぶやすらぎデイの利用者さんからいただいた一句をご紹介します。

## 一人暮らしのお年寄りを、地域連携で住み慣れた地域で暮らしを支える

Aさんは80代女性で、ご主人が亡くなった後は一人暮らしをしていらっしゃいます。地域の民生委員さんからの連絡で、「最近町を徘徊することが多くなり、迷子にもなっている。本人のことが心配なので一緒に様子を見て欲しい。」とお年寄り地域福祉支援センターかみあらやに連絡が入り、一緒に訪問したことがきっかけで関わり始めたとのこと。

Aさんは何ヶ月もの間、入浴や掃除のほか、食事にも困っている状況だったため、ご家族とも連絡を取り、毎日の見守りと食事の確保のため配食サービスを開始しました。その後、介護保険を申請し、やすらぎのヘルパーが毎日訪問するようになりました。現在、お部屋も清潔にされ、ご本人は御飯を炊くこともできるようになられ、洗髪や足浴、清拭など、ヘルパーがかかわることで確実にAさんの生活は以前より豊かになっているようです。

地域の民生委員と地域福祉支援センター、ヘルパー事業所の連携によって、一人暮らしのお年寄りの生活を支えています。今では、Aさんはやすらぎのヘルパーが来るのを毎日心待ちにしている様子です。



# 介護学習会に80名が参加

介護保険制度がスタートしてから10年の間に、介護をめぐる深刻な事態が広がっています。介護保険法は5年ごとに見直しが見られることになっており、国では今まさに、来年の通常国会の法案提出に向けての議論の真っ最中です。

9月21日に、現在国が見直しを進めている中身を学ぶ学習会をやすらぎホームで開催しました。国の基本方針は、当事者である利用者・家族や、われわれ介護現場が求める内容が十分に反映されていないことが分かり、今こそやすらぎ福祉会の理念に結びつく介護保険になるように、現場からの声を発信する必要性を実感しました。ぜひ、現在取り組んでいる署名にご協力をお願いします。



## 「介護改善署名」にご協力を!!

### 介護保険制度の 抜本的な改善を求める署名

衆議院議員 姓 \_\_\_\_\_ 年 月 日  
参議院議員 姓 \_\_\_\_\_ 住所 \_\_\_\_\_

介護の社会化をめざし介護保険がスタートして10年が経ちました。指定者や受給者の数、介護給付費が大幅に増加している一方、利用料など高い費用負担のため、サービスの利用を控えざるを得ない事態が広がっています。介護予防でサービスの利用の回数や日数が減られ、生活に支障をきたしている利用者もたくさんいます。法定制度や介護費に決められたサービスの上限額など、介護保険制度に組み込まれてくみかみが必要サービスの利用を制限しています。利用制限は42万円に達し、入居1年持ち、2年持ちが当たり前の状態です。要介護の介護費は100万円を超えています。介護費は介護の中心となるべき重要な役割が果たせられず、ここ数年は年間50万円以上も超えています。介護費の引き上げがなかったものの、労働条件の改善や人手不足の解消など介護現場の改善を打撃するにほどこないの苦境です。こうした介護保険制度の抜本的な改善が求められています。利用者の負担を減らし、生活環境などの介護サービス利用を制限する、施設の利用を制限する、保険料サービスを拡大するなどの負担では、高齢者・高齢者の生活を支えられないままです。お金の心配をすることなく、必要な介護を受けることができる制度への抜本的な改善が必要です。同時に、介護を担うすべての介護職員の専門性を高め、誇りをもって働き続けられる労働環境を一つも無く改善させなければなりません。

- 請 願 理 由**
- 1 利用料、介護保険料を引き上げないこと、住民税非課税者から利用料、介護保険料を徴収しないこと、施設等の居住費・食費は保険給付に戻すこと。
  - 2 現行の要介護認定制度を廃止し、区分支給限度額を撤廃すること。
  - 3 ヘルパーの生活援助をはじめ軽度者の介護サービスを介護保険から外すことなく、拡充すること。訪問看護やリハビリなどの医療系サービスは医療保険に戻すこと。
  - 4 公的補助を拡充し、特養ホームなど地域に必要な施設や在宅サービスの整備を強化すること。長期療養を担う介護療養病床の削減計画を撤回すること。
  - 5 介護報酬の引き上げ、実効ある処遇改善策により、労働条件の抜本的な改善をはかること。介護報酬引き上げの際に、介護報酬引き上げの原資、利用者負担の削減につながらなくすることを要すること。
  - 6 介護保険制度に対する国民負担の割合を最低でも5割まで引き上げること。

氏 名	住 所

※この署名は、署名に該当する方のみが記入してください。  
全日本民権連 1134465 東京都文京区湯島3-4-4 平野と野村センター7F  
TEL 03-5842-6451 FAX 03-5842-6450 URL http://www.min-ken.jp

- ・利用料、介護保険料を引き上げないこと。住民税非課税者から利用料、介護保険料を徴収しないこと。施設等の居住費・食費は保険給付に戻すこと。
- ・現行の要介護認定制度を廃止し、区分支給限度額を撤廃すること。
- ・ヘルパーの生活援助をはじめ軽度者の介護サービスを介護保険から外すことなく、拡充すること。訪問看護やリハビリなどの医療系サービスは医療保険に戻すこと。
- ・公的補助を拡充し、特養ホームなど地域に必要な施設や在宅サービスの整備を強化すること。長期療養を担う介護療養病床の削減計画を撤回すること。
- ・介護報酬の引き上げ、実効ある処遇改善策により、労働条件の抜本的な改善をはかること。介護報酬引き上げの際は、利用者・高齢者の負担増につながらなくみをつくること。

## 辺野古連帯支援行動に参加しました!!

やすらぎホーム 介護福祉士 米持由美

(9月10日~12日)  
初めて沖縄の実態を目の当たりにして、とても驚きました。想像以上に基地が生活の中に入り込んでおり、騒音や飛行機の墜落に怯えながら生活している沖縄の方々の気持ちを思うと計り知れない苦しみだと思いました。座り込み行動、海上調査を通して沖縄の自然の美しさを知ることができ、ここに基地を作ってはいけないという思いが強くなりました。ここで聞いた、移設候補先にあがった県が“うちは絶対だめ!”と主張するが、“沖縄にもダメだ!日本には基地は要らない!”という主張にならないことが残念”というお話を聞いて胸が痛くなる思いでした。やはり日本全体が、国民一人ひとりが戦争を自分の問題としてきちんと考えなければ…という思いが強まりました。



※辺野古連帯支援行動…普天間基地移設先の沖縄県名護市辺野古では、地元住民が反対の座り込みが続いています。非暴力のたたかいは共感を得て、全国から多数の支援者が集まっています。